

「白石」でつながる友好

札幌市白石区の「白石区ふるさと会」の皆さんがパレードに参加！

「白石区ふるさと会」は昭和51年に発足し、毎年10月に開催されている「白石区中学生の主張発表会」に本市の中学生を招待したり、「白石音頭・夏まつりパレード」に参加したりするなど、交流を深めている。また、東日本大震災発生後は、被災した本市のために毎年復興寄付金を届けていただくなど、支援を続けてきている。

今年の「夏まつり」にも白石区から「白石区ふるさと会」会員など4人が来白し、「両白石」の絆を深めた。

「白石区ふるさと会」からの復興寄付金額

年度	復興寄付金額(円)
平成22年度	1,000,000
平成23年度	3,193,463
平成24年度	125,437
平成25年度	161,693
平成26年度	139,664
合計	4,620,257

※平成26年8月10日現在



1_平成25年10月19日に白石区で行われた中学生の主張発表交流事業に市内中学生が参加。一緒に昼食をとり、交流を深めた 2_「白石区ふるさとまつり」に「片倉鉄砲隊」が参戦！まつりを盛り上げた 3_今年も白石区の皆さんが「白石夏まつり・白石音頭パレード」に参加。風間市長とともに市内を練り歩いた

「白石区ふるさと会」を直撃！

交流は宝

白石区ふるさと会会長 武藤 征一さん



白石区の開拓は、明治4（1871）年に白石市から片倉家臣団約620人のうち約400名が札幌の最月寒に移住してきたことから始まりました。その約90年後の昭和38（1963）年、白石区にある白石中学校教諭が郷土開拓の歴史調査のため白石市を訪れたことをきっかけに、昭和43（1968）年、札幌市立白石中学校と白石市立白石中学校が姉妹校締結し、市民レベルでの交流が始まりました。昭和45（1970）年には、白石区入植100年を記念して「中学生の主張発表会」が白石区で開始。35年前からは、両白石の中学生同士が行き来する中学生の主張発表交流事業がスタートしました。入植後100年が経過したこのころ、白石区での生活が安定してきたこともあり、自分たちのルーツである白石市と関係を持ちたいという思いから先輩が白石市を訪ねました。すると、ちょうど行われていた夏まつりを見て、それが大変にすばらしく、とても感動したそうです。「このようなお祭りをぜひ白石区でもやってみよう！」と考え、昭和51（1976）年から「白石区ふるさとまつり」を始め、今年で第39回目を迎えました。

「白石区ふるさと会」は昭和51（1976）年3月に発足。同年4月には白石市に「札幌白石親交会」（現白石市姉妹友好都市交流協会）が設立され、「白石区ふるさと会」と「札幌白石親交会」とが窓口となって本格的な交流が始まりました。再来年はふるさと会設立40周年。偶然ですが札幌市白石区役所の新庁舎が完成予定の年ということもあり、この記念の年に、何か行事を行いたいと考えています。

今回白石市に来た白石区のメンバーに、ご先祖が明治4（1871）年9月12日、寒風沢島（現塩竈市）を咸臨丸で出航された、その子孫の方がいます。その方は現在、「白石区ふるさと会」の役員で、同会の歴史文化委員長に就いています。歴史文化委員会は平成23年5月に発足し、「白石区郷土資料館」を創ることと「さっぽろ白石片倉鉄砲隊」を設立させることが目標で、白石区民有志が「片倉鉄砲隊」に入隊し修行を重ねるなどの活動をしています。これら2つの事業を実現させるためには白石市の皆さんのお力を借りなければ前に進むことはできません。皆さんのあたたかいご支援をお願いします。

私は昨年11月、「白石市・登別市姉妹都市締結30周年記念式典」に参加し、新たに交流を深めさせていただきました。昨今は、春まつり、夏まつり、そして秋には鬼小十郎まつりなどで交流がありますし、中学生の主張発表交流事業は今年で35年目を迎え、札幌市立白石中学校教諭が本市を訪れて以来、両白石中の交流は半世紀を超えて続いています。また、東日本大震災が発生してからは、白石区民からお預かりしました義援金を白石市への復興寄付金として微力ですが毎年届けさせていただいています。

今後さらに、「両白石」の交流が深まっていくことを願っています。白石市の皆さん、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



主催者の 熱き思い を聞いた

盆踊りという文化を次世代につなげる

公益社団法人白石青年会議所理事長 山田 裕一さん



当日は午前中からお昼過ぎにかけてあいにくの雨。「駅前盆踊りはやるの？」という問い合わせを数多くいただきました。問い合わせが多いということは、来ていただける、開催するかしないかを気になっている人が多いということだと思います。

各地区の盆踊りは継続して開催されているところが多いのですが、駅前盆踊り大会は17年前に途絶えてしまっていました。近年、人口が減少してきていますが、「なんとか駅前に賑わいを創出し活気ある白石のまちにしよう」と、平成22年に白石青年会議所が主体となって復活させました。

5回目を迎えた今年のテーマは、「納涼・和から輪」。このテーマには、日本の文化である盆踊りを意味する「和」と、盆踊りの「輪」に世代を超えて参加して欲しいという意味を込めました。また、和太鼓の「幻創」さんや津軽三味線奏者の小野越郎さんなど、「和」の道で活躍されている人たちの「本物」の演奏を聞きながら楽しく踊ってもらいたいという強い思いもありました。今回の盆踊り後半には、尺八奏者の方が檣から降り、盆踊りの「輪」の中で演奏してくれた姿や最後まで一生懸命踊ってくれた子どもたちの姿、子どもに踊り方を教えながら踊っていた親子の姿など、参加した皆さんが楽しそうに踊ってくれている姿がとても印象的でした。

私は幼いころに参加していた地区の盆踊り大会で、準備や片付けをしていた大人たちを見て、「カッコいい！」と思い、盆踊りがさらに好きになった記憶があります。今の子どもたちにも、地域の伝統や文化をもっと好きになって大事にってもらいたいですし、それをまた次の世代につなげていけるようにこれからも活動していきたいと考えています。